『どんぐりの不思議』
森の恵みと種の旅立ち

平成 24 年 11 月 11 日
NPO 四季の森里山研究会
武本弘次・上野潤二・尾崎一源

１．どんぐりと里山

・コナラやクヌギなどの落葉広葉樹は里山に植生
・シラカシは、四季の森など関東の平野部の優占種　（東高根森林公園）

・どんぐりの種類と特徴を見てみましょう。（裏面）

２．どんぐりと動物

・コナラやクヌギに寄生する昆虫
９月の初め頃、小路にどんぐりの付いた小枝が落ちているのをみませんか？
ちいさな孔の開いたどんぐりの中をみてみましょう。
ゾウムシの仲間の幼虫がいます。

・りすなどの哺乳類、かけすなどの鳥類の餌になりますが、みんな食べられてしまうのでしょうか　？　　動物散布
・近年、ツキノワグマが里山に降りてきます。奥山のミズナラやブナの実の不作が原因のひとつと言われています。
・どんぐりなどには成年と不作の年があります。どうしてでしょうか　？

３．どんぐりの発芽

①まず、根っこが出る　②殻が割れて子葉が出る　③子葉の間から本葉がでる
・どんぐり類は乾燥に弱い。
・どんぐりの発芽は「冬の寒さ」を体験すると、発芽率が高まる　？
発芽の３条件　水・温度・空気（酸素）

・どんぐりは、葉っぱ？
種子には、有胚乳種子と無胚乳種子があります。
有胚乳種子には、イネ、トウモロコシなど、これらの種子は胚乳という器官に養分が貯蔵されています。
無胚乳種子には、キュウリ、ダイズ、ラッカセイ、どんぐりなど、これらの種子は胚乳がなくなり子葉に養分が貯蔵されています。
柿の種と比べてみましょう。

（本日はご苦労様でした。次回は 12 月 9 日（日）１３時より自然観察会を行います。）